42









Autonomous Mobile Robotics
自律移動ロボット

日常から産業まで、未来を創るロボット技術

競技は2名の選手によるチーム戦で、選手がプログラミングしたロボットは、品物を目的地までいかに速く、正確に自動配達できるかを競います。選手たちは大会当日までに、ルールブックで定められた仕様を満たしつつ自由に設計・製作したオリジナルの自律移動ロボットを準備します。各チームが自らのプログラミング技術を駆使して制御するロボットは、どれも独創的で見応えがあります。また、参考課題をもとにハードウェアの調整や制御プログラムの改良を重ね、大会当日の競技課題に備えます。大会当日、参考課題をベースにした競技課題が出され、いよいよ本番。課題で示された動作・機能を正確に分析し、実現する技量が競われます。



＜2025年大会 出場選手＞

競技職種と生活との関わり

ロボットは、人間の代わりに作業や動作を自律的に行う装置または機械のことで、産業用ロボットや掃除用ロボット、搾乳ロボット、介護ロボットなど多種多様なものがあります。今日では、工場での生産ラインにおける自動化や、家庭での日常的な清掃、農業現場での収穫や乳搾り、さらには病院や介護施設における支援など、幅広い分野でロボットが生活に関わっています。この競技を通じて養われる設計力やプログラミング力は、社会に役立つロボット技術の基盤となり、将来の職業人としての可能性を広げていきます。

前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：株式会社デンソー］

首藤 大輝 さん

色々コツコツ
やっていけば努力は
実ると思うので、
毎日コツコツ頑張って
いってほしいです！

竹内 海晟 さん

これからまた、
どんどん職種としても
レベルアップをしていくと
思うので、レベルアップを
目指して頑張って
ほしいなと
思います！

前回大会
金メダリスト
インタビュー！



知識を掛け合わせチーム力を高め勝利への道を開く

団体競技になるため、選手同士のコミュニケーション能力は競技のポイント。ロボットの設計や製作、組立て、プログラミング、試験および調整などの作業を、効率良く行うためには息の合った連携が必要です。また、モーターなどの駆動系やセンサーなどのハードウェア知識、プログラミング能力など選手本人の高い知識と技術力、そして何より、システム全体を俯瞰できるロジカルな設計力が問われます。

斎藤 誠二 主査　職業能力開発総合大学校

